

CONTENTS

● 第10回通常総会	1	● 製品安全環境委員会セミナー報告	6
● 会長・新任役員挨拶	2・3	● 組織図・平成18年度役員名簿	7
● 平成18年度事業計画	4・5	● AMEI会員名簿 総会議事録開示・定款配布のご案内	8

第10回通常総会



総会風景



経産省太田茂雄様のご挨拶



加藤会長の挨拶



加藤副会長への記念品贈呈（懇親会）



JASRAC泉川常務理事の乾杯（懇親会）

平成18年5月10日午後4時から、ホテルエドモント「万里の間」に於いて社団法人音楽電子事業協会 第10回通常総会が開催されました。

議案審議に先立ち、加藤博万会長の挨拶に続いてご来賓の経済産業省文化情報関連産業課課長補佐 太田茂雄様からご挨拶を頂きました。

定足数の発表と総会成立が報告され、加藤会長の議長のもと、平成17年度事業報告、収支決算書、平成18年度役員を選任が審議・承認されました。その後15分の休憩の間に別室で臨時理事会が開催され、理事の互選により会長、副会長、専務理事、常務理事が決定されました。続いて総会が再開され、平成18年度事業計画、収支予算案、定款変更が審議・承認され、通常総会は閉会しました。

その後、午後6時から「春琴の間」にて通常総会懇親会が開催され、主催者加藤会長の挨拶の後、ご来賓各位からのご挨拶に続いて、社団法人日本音楽著作権協会 泉川昇樹常務理事による乾杯のご発声により賑やかに懇親の会が始まりました。

この席上、副会長として当協会の諸活動に多大なるご尽力を賜り、MIDI規格をはじめ多方面で多大なる功績を残され本年退任される加藤孟氏に対して、加藤会長から感謝状と記念品が贈呈されました。引き続き懇親会が継続され、日本楽器フェア協会専務理事 池田脩二様の中締めの後、午後8時過ぎに散会しました。

新たな10年に向けて

加藤 博万 会長
ヤマハ株式会社 常務取締役

会員の皆様にはますますご健勝のことと、お慶び申し上げます。

今年がAMEIも創立11年目となり、いよいよひとつの時代から次の10年への切れ目の時と考えると、協会が果たしてきた役割の重さ、またこの先の協会運営の責任の重さが実感され、感慨も一層のものが感じられます。

この10年間のAMEIの活動を振り返ってみますと、その活動の基本は、一言で「MIDIの普及とそのコンテンツ応用」が非常に好循環で行われた10年と考えられます。MIDIデータが楽器の制御シーケンスとして楽曲コンテンツを構成し、それらがカラオケ曲や携帯電話の着信メロディーへの導入につながり、現在の音楽電子サービス事業の隆盛につながって行ったことは言うまでもありません。この発展の歴史が、AMEIの会員の構成メンバーの多様性を裏付けているものと思います。すなわち、AMEIの会員は楽器の製造というハード、コンテンツの提供というソフト、コンテンツサービスを可能にする通信インフラとその運営に関するサービス、さらにデータの知的所有権として管理する著作権処理まで、音楽／ネットワーク／通信ビジネスに広く関わっている企業や団体会員で構成され、言わば異業種分野の会員の皆様が一つの社団法人を作り上げております。これが協会全体の活動業務の広がり感となって、良くも悪くも大きな特徴となっていると思います。

AMEI活動を二分する「MIDI規格の推進」と「楽曲の著作権処理」はAMEI事業における車の両輪であります。同時にこれらは音楽コンテンツのインプット処理とアウトプット処理に関わる活動として、AMEIにとって共に重要な要素でもあります。ともするとAMEIの内部においても、前者は技術的課題として後者は事業的課題として、相互に関心のない二つのテーマの進行として見なされがちですが、これは協会活動の焦点の甘さにつながりかねません。この2つの分野はAMEI活動の重要領域であり、このどちらが欠けても健全な音楽ソフト産業の振興はあり得ないことを再認識し、私たち会員が協会の活動をメリットとして享受できる活動項目を今まで以上に明確にして行くのが、今後のAMEIの課題と考えております。そのために、MIDIの活動においては成熟・完成された現在の規格から、新たに考えられる楽器の性能向上への対応、映像画像とのインターアクション、さらにはMIDIイベント処理の他の機器への応用などを通じて、価値の向上と普及を追求して行くことが必要と考えます。また、著作権処理の活動に関しては、その適用がカラオケ、モバイルなどの分野を問わず、AMEIもしくはNMRCとの連携を通して行えるようにしております。会員の皆様のベネフィットになるような情報活動やコミュニケーション活動が、より早く正確にできるようにと考えております。

今年度は新たな10年に向けて踏み出す年ですが、今後のAMEI活動におきましても、基本的には「車の両輪」は変わらないと思います。MIDIを取り巻く技術においても、やはり進歩に即した対応の必要性が起こることも予想されます。しかし技術の進歩に関わらず、人間のイベント操作に対する



時間的な精度は変わりません。楽器演奏のイベントの速度と解像度の中で私たちは、もたらされる音の制御に芸術的な精妙さを感じる訳です。MIDIで培ったイベント処理の応用は、映像や音との複合マルチメディアの制御に全く同様に適応されて行くものと思います。また、WEB2.0等の考え方の普及は、今後急速にネットワークでの音楽関連データの送信の方向性を多様化して行くものと思います。すなわち、ロングテールを狙った配信データは離散的に、ユーザー参加型の楽曲データのアップロードは頻繁に起こり、これらの著作権処理の課題は「多」から「個」へと新しく変化して行く可能性があります。

私たちは、急速な技術の進歩とビジネス環境の変化の中で、AMEIが依然として一番得意とする「音楽の作り方」と「楽曲の扱い方」の部分で自分たちの役割を明確にし、音楽電子事業の反映に役に立つことを目指して行きたいと思えます。更なる関連業界の発展に寄与することを目指し、会員の皆様のご協力とご支援、また経済産業省をはじめとする関連省庁、関連団体の皆様のご指導を仰ぎながら、この1年をこれからの10年につなげるべく活動、努力して行く所存です。

新任副会長挨拶

佐々木 隆一 副会長
株式会社エムティーアイ 取締役

会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

この度、第10回定時総会におきまして副会長に推挙されましたことは光栄でもありまた、その責任の大きさを痛感致しております。

当協会も社団法人となって既に10年が経過しました。設立当初からの事業活動等も順調に推移しており、音楽電子事業における業界の発展と会員企業の皆様の企業活動にささやかながら貢献できたのではないかと思います。

しかしながらAMEIの活動も10年を経て、情報インフラや音楽電子機器の発展、急速に進化する次世代モバイルの普及、ブロードバンドの普及などこの数年の進化は激しく、業界を取り巻く事業環境も大きく変動している中、AMEIの事業や活動内容も状況の変化に対応し、改革する必要に迫られていると認識しております。当協会の各委員会活動は、類似の業界団体（社団や財団）と比べても質が高く、とりわけMIDI規格や著作権のように、当協会の活動の結果が社会へ大きく貢献する活動は特筆すべきものがあります。それだけに、将来に向けてAMEI会員や関連業界の期待に応える活動を継続するには、AMEIの事業や活動内容を全面的に見直す時期に来ております。

現会員企業やAMEIの活動に期待している業界・企業のためにAMEIは何ができるか、が問われております。AMEIを構成する楽器・機器業界、カラオケ業界、コンテンツ業界の三つの業界の発展を支える中核的な活動母体としてのAMEIを目指して、三役会、理事会、委員会活動の活性化に取り組んで参りたいと考えております。

皆様のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。



新任常務理事挨拶

加藤 世紀 常務理事
株式会社コルグ 代表取締役社長



AMEI会員の皆様には、ますますご健勝の事とお慶び申し上げます。

私個人と致しましては、創生期よりAMEIと共に歩み成長して参りました。特に昨年度までMIDI規格委員会の委員長を務めさせて頂いたこともあり、私のAMEIとの関わりはそのままMIDIとの関係でございます。これまでの間、電子楽器での利用から、カラオケ、モバイル、通信関連等に至るまで、業界の将来を見据えつつMIDIの活用分野拡大のための諸活動に参画させて頂いた事を、大変光栄に思っております。

思えば、20年以上も前に音楽制御を目的として作られたMIDI規格が、これまで維持され、かつ急速なテクノロジーの進歩に対応して行けたことは奇跡に近い事です。これは、日米の音楽好きのエンジニアを中心とした計り知れない努力と苦悩の証であります。更にAMEIが、他の団体との有機的な結合などを通し、著作権問題をはじめとする多くの課題を処理して来られたことも、皆様の多大なるご支援とご協力のたまものがございます。

今後の前向きなMIDIの発展は、会員の皆様の失敗を恐れない積極的な改革意識に負うところ大であることを思いつつ、また業界の発展と、音楽普及を通じた会員の皆様のご成功をお祈りしつつ、更に充実した活動に向け努力をして参る所存です。

袴 俊雄 常務理事
株式会社ビクターネットワークス 代表取締役



AMEI会員の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

この度AMEIの常務理事という大役を仰せつかることとなり、その重責を果たすべく精一杯の努力をさせていただきます。

ご存知の通り「着メロ」から始まった音楽配信も、今や音楽業界・モバイル業界・IT業界を巻き込んだ産業に育ちました。その中で音楽著作権の正しい運用について、私どものAMEIはネットワーク音楽著作権協議会(以下NMRC)の中核となり、JASRACなどの著作権管理事業者との協議や関係省庁への働きかけなど、大変重要な役割を果たして参りました。

更に2006年4月からはNMRCの事務局機能をAMEIが受託することにより、音楽配信事業を運営されている会員の皆様のご意見を反映した迅速な対応を実現できる体制となりました。

JASRACの音楽配信使用料規程を決めるに当たって、法律で認められた利用者代表として唯一の協議団体であるNMRCは、新たに登場するテクノロジーやサービス、一層発展するであろうインフラに対して、事業者としていかに取り込んでいくべきであるか、また関係業界や各権利者との関係がどのようにあるべきなのかを考える大変重要な役割を担っております。

今後登場する新しい事業モデルにおいても、様々な著作物の使用は必要不可欠です。新たな利用形態に応じて生まれる著作権問題への敏速な対応は、とりもなおさずビジネスチャンスの増大に繋がります。また、将来の著作権関連の法令改正に対しても、会員の皆様のご意見を積極的に反映させて頂いております。

楽器から始まったMIDIが通信カラオケ・着メロを経て更なる発展をするためには、新しいビジネスモデルの創造が必要です。そのためにも「著作権」を尊重する精神を基本に据え、皆様のご支援を頂きながらJASRACを始めとする著作権管理事業者との協議を進め、AMEIの発展に努めていく所存です。

ここ数年でインターネット・ブロードバンドの普及は世界一になり、かつ携帯電話の成人への普及率が一人1台以上にもなったこの日本において、今後もデジタルコンテンツの配信サービスは飛躍的に伸びると言われております。このチャンスを皆様の事業に結びつけるためにも、スピードを重視しながら対応したいと考えておりますので、若輩者ではございますが、会員の皆様のお力添えとご鞭撻を頂きながら、全力で取り組んで参ります。

新任理事挨拶

大野 政昭 理事
株式会社サミーネットワークス 代表取締役社長



AMEI会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

この度、理事に就任させて頂くこととなりました。微力ではございますが尽力して参りたいと思っておりますので、ご指導・ご支援のほど宜しくお願い致します。

私どもが会社を設立した2000年に比べまして、ネットワークの普及には目覚ましいものがあります。あらゆる端末や機器が様々なネットワークにつながり、欲しい「もの」を、欲しい時に、欲しい場所でユーザーは手に入れることが出来るようになって参りました。我々もそうした時代の中で「MUPASS」という新しいプラットフォームの普及を目指して取り組み始めたところでございます。

微力ではございますが努力して参りますので宜しくお願い致します。

踊 契三 理事
ギガネットワークス株式会社 代表取締役社長



AMEI会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

この度理事に選任され、私自身も微力ながら貢献できますよう努力致す所存ですので、何卒ご指導を宜しくお願い申し上げます。

特に携帯電話を中心とする通信サービスにおいてAMEIが関わってきた活動や実績を、直接活用して事業を行なう立場でしたが、各種の課題が先行して検討・解決されている事を常に感じておりました。

世界でも最先端を維持する日本のマルチメディア業界ですが、昨今では海外勢の躍進が大変目立ちます。グローバル化し良質の製品を大量生産しなければ勝てない事は時代の趨勢ですが、現在の製品はそれ自体の価値だけではユーザーを満足させる事は叶いません。中でも無形のコンテンツ等を楽しむ機能は大変重要であり、AMEIが果たす役割は益々拡大するだろうと強く感じます。

また、通信機能が前提となり、その仕様や権利保護規格等は国境を越えますが、海外市場におけるその重要性の認識はまだ少ないのではないのでしょうか。

日本が誇る製品開発力や、ソフトビジネスの企画力を世界に示し、企業やユーザーが皆メリットを享受できるよう、会員企業の皆様と共に様々な活動をできればと期待しております。

飛河 和生 理事
クリムゾンテクノロジー株式会社 代表取締役社長



会員の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、このたびの通常総会におきまして当協会の理事に就任させて頂くことになりましたので、ここに謹んでご挨拶申し上げます。当社はMIDI・音声関連技術の開発ならびにコンテンツ制作・提供を主業務とし、2002年に設立した歴史の浅い会社ではございますが、MIDIの更なる発展に対する熱い信念を持っております。今後とも宜しくお願い申し上げます。

また、MIDI規格委員会におきましては、本年4月より委員長を務めさせて頂くこととなり、新たなオープン体制のもと、現行のMIDI規格や将来に向けた次世代の規格について審議を行っております。

今までの技術審議で最も思い出深いのは、General MIDIの提案をさせて頂いた時のことです。当時は、標準化に対する多くの反対意見が寄せられましたが、GMシステム・オン/オフによって各楽器の個性を活かしながら互換性を持たせるという解決策によって標準化に至りました。

会員の皆様のご協力とご支援を賜りながら、MIDIの輝かしい将来に向けて努力して参りたいと存じます。今後ともご指導・ご鞭撻のほど、宜しくお願い申し上げます。

平成18年度事業計画（委員会活動）

（平成18年4月1日～平成19年3月31日）

1 全体活動

急速な市場の変化に対応すべく、当社団として各部門で今後の新たな対応が求められていることを、関係者全員で認識し、可能な分野から逐次新たな指向で各委員会活動を積極的に推進する。

2 製品安全・環境委員会

<活動方針>

電子電気楽器及び関連機器の安全確保・環境保全を軸として、電子電気楽器及び関連機器市場における製品の安全性や信頼性の向上と維持、更にはそれに伴う関係会員企業の事業の安定化、事業リスクの低減に寄与するものとする。

<委員会・部会活動>

二つの専門部会を中心として、相互の協力体制の下、委員会運営内規の見直し、新規委員の継続勧誘、役割分担の検討等を通じ、本委員会活動の趣旨を全うするための運用上の基本施策として、活動環境の整備、工夫改善に取り組む。

【専門部会 部会長交代】

安全規格部会長

末次賢一氏（ヤマハ株式会社）から田中敏夫氏（ローランド株式会社）へ

◇安全規格部会

1. 安全規格セミナー（IEC基礎知識等）、EMCフィールド実験等の実施
2. CISPRマルチメディア国際規格策定への継続的参画
3. 中進国の法規制状況を中心とした各国規制動向の把握と情報提供

◇環境問題研究部会

1. 容器包装リサイクル法の改正に関する動向調査の実施
2. 欧州WEEE & RoHS指令の施行状況確認

3 MIDI規格委員会

<活動方針>

急速な時代に対応すべく組織体制を一新して新たな審議体制で運営する。

1. 迅速でかつオープンな規格審議体制の確立
2. MIDIの新市場の創造に向けた新規提案と市場の活性化。
3. MMAとのより密な連携体制構築、審議の迅速化。
4. MIDI規格委員会の内部規定の明確化
5. MIDIの新市場創造の検討
 - ・着信メロディに続く新規市場創造を視野に入れた規格の立案と審議
6. AMEI新規会員獲得に繋がる他分野との積極的な連携
 - ・特許、商標等のMIDI関連IPに関するルールの明確化
 - ・モバイル、ロボティクス、デジタル家電市場などへのMIDI応用規格提案

<委員会・部会活動>

1. MIDI規格委員長を加藤世紀氏（株式会社コルグ）から飛河和生氏（クリムゾンテクノロジー株式会社）へ交代
2. 年間を通じ、新たな全体委員会活動の実施、関連諸情報の共有化
3. 委員会の元、MIDI 1.0部会と次世代-MIDI（仮称）部会で活動する。

4 著作権・ソフト委員会

<活動方針>

年間11回の全体委員会（定例会）を開催し、諸テーマの検討、審議を実施する。

1. 著作権等管理事業法の制定に伴い発生した問題点等を解決すべく関係団体と協力し文化庁に対する活動を引き続き活発に行う。
2. 定例会を通じ各部会の取り組み課題、管理事業者との協議状況をタイムリーに情報提供、会員の意見を吸収、部会活動に反映させる事により活発な活動にする。

<委員会・部会活動>

◇カラオケ部会

1. JASRAC等管理事業者に使用料規程の見直し協議を引き続き行う。
2. 管理事業者の管理楽曲が管理除外された場合の対応問題は、関係団体の協力のもと、その解決に向け文化庁等に働きかけていく。

◇音楽配信部会（「インターネット・モバイル部会」より改称）

1. NMRC事務局機能をAMEI事務局にて運営する事により、従来にも増して関係省庁及び関係団体との協調効果の拡大、会員へのサービス向上を図る。
2. 音楽配信事業に関する著作権管理事業者との協議をNMRC活動として行う。
3. カラオケ部会と共同で管理楽曲除外問題に取り組む。

◇ソフト規格部会

1. MIDI及び音楽関連ソフトウェア事業に関する情報交換、勉強会の実施。インターネットを始めとした新しいメディアに於ける音楽電子事業の研究。
2. ワーキンググループによる諸問題の討議、検討、規格化と実践。

5 透かし推進プロジェクト

<活動方針>

AMEIが提供する「標準MIDI電子透かし」（第一層）埋め込みツールであるMIDIsignを用いて会員企業がISMC規格を利用するように促進し、MIDIデータ作成販売におけるDRM（電子的権利保護）の仕組みを構築する。共通透かしの利用によりデータの違法複製抑止、ならびに権利者からの円滑な許諾を獲得して業界の発展に貢献する。

◇プロジェクトは3つのワーキンググループによって活動する。

- 1) 技術ワーキンググループ
- 2) 運用ワーキンググループ
- 3) 普及展開ワーキンググループ

6 メディアコンテンツ委員会

<本委員会の活動ポイント>

昨年の実績の上に、“コンテンツ”自体に焦点を合わせてサラウンド・サウンド、或いは、マルチスクリーンによる映像の組み合わせ等に代表される、最近の市場・市況に的を絞った活動に結びつける。

今期はこれまでの成果の上に、サラウンド、モバイル関連、映像関連など更に本来のコンテンツ制作に関わる基本技術、応用技術を研究し、セミナー・講演会等によりAMEI会員各位に啓蒙していくものとする。

特に、MIDI環境の上でのAMEIが提案できる新たなコンテンツ作成手法についても、セミナー等を活用した積極的な活動を進める。

7 MIDI検定委員会

<活動方針>

1. MIDI検定試験の減少傾向に歯止めをかけ、拡大に向けてMIDI検定のあり方を含め運営全体の見直しを図る。
2. 指導者の育成プログラムを完成する。
3. 2級ライセンサーとの情報交換、意見交換を強化する。

◇MIDI検定試験

- 1) 第9回3級、第8回2級筆記試験
平成18年12月3日（日）
- 2) 第8回2級実技試験
平成19年2月 東京、東京アップル、大阪会場
- 3) 4級認定講座 随時

◇指導者認定講座

- 1) 4級指導者、3級指導者認定講座
東京、大阪会場にて春に実施
- 2) 2級筆記試験用指導講座 夏～秋に実施

◇ライセンサーとの意見交換会 2回予定

◇海外展開

- ・中国：同日、同内容の実施、2級試験への準備
- ・韓国他：試験実施に向けての準備

8 事業委員会

AMEIとして、メディアコンテンツ委員会との連携で、セミナー、シンポジウム等の企画・実施により、「AMEIの事業内容」の認知と音楽電子機器、各種関連ソフトウェアの普及を図る。

9 広報委員会

外部に対する情報発信機能を充実し、当協会の存在意義を広くアピールすると共に、会員に対する情報発信機能の充実により、会員の連帯感を強め、公益団体としての当協会の積極的な活動を側面からサポートする。

- 1) 会報「AMEI News」の発行
 - ・定期会報：年3回発行予定（4月、7月、12月）
- 2) ホームページの充実（事務局との連携により推進）
 - ・各委員会、部会、WG等の活動報告のページ
 - ・会員用ページ
 - ・その他
- 3) その他の広報活動を随時実施

最近のドイツ・欧州環境規制の動向 ～WEEE/RoHS指令を中心に～

製品安全・環境委員会 環境問題研究部会
部会長 八木 茂良



A MEIの製品安全・環境委員会 環境問題研究部会では、数年前から欧州のWEEE指令及びRoHS指令に関する情報を収集し、部会での情報交換や外部講師を迎えての勉強会を開催し、会員会社へタイムリーに情報を提供するなど、製品を製造・販売する際の専門知識の習得や事業リスクの低減に寄与するよう努めてきました。

欧 州の上記二つの指令のうち、WEEE指令は平成17年8月13日に発効しています。EU加盟各国は国内法を制定して対応する必要がありますが、国により様々な事情があるため、スタートの足並みは決して揃っていません。しかし、自社が販売する商品の廃電気・電子製品については、分別回収してリサイクルする義務がすでに発生しています。一方RoHS指令は、EU加盟国で上市される電気・電子製品について特定有害化学6物質の含有量を規制するもので、本年7月1日以降は製品(部品)の生産時点からの対策が必要となっており、そのための対応期間も残り少なくなってきました。

こ のような状況を踏まえ当環境問題研究部会では、ドイツ・ケルン在住の環境コンサルタント(ドイツ・欧州環境規制調査)である望月浩二氏を今回講師にお迎えし、「最近のドイツ・欧州環境規制の動向 -WEEE/RoHS指令を中心に-」と題して講演をして頂きました。現地に在住され、環境の業務をされている方のお話を聞く機会は極めて少なく、非常に有益な勉強会となりましたので、以下、講演会の概要を報告致します。

講 演会は去る4月25日(火)、静岡県浜松市のアクティシティ浜松・研修交流センターにて28名の参加者を得て開催されました。講演会では、ケルン市清掃局が全世界に配付した「廃電気・電子機器の回収」を説明するチラシの紹介から始まり、主にドイツ国内法の「電気・電子機器法(独語略称: ElektroG)」の詳細、製造者の義務発効予定や対象製品、廃棄物処理企業が製品の製造販売者の代行をするサービス等について説明がありました。

具 体的には、製造者は、分別収集のためのシンボルマークを電気・電子製品に表示する義務が課せられ、それらの廃製品を分別回収し、材料のリサイクルや部品の再使用をすること等が義務付けられていますが、それだけでなく、リサイクル資金の保証義務も負っ

ています。特定有害化学物質における6物質に関しては、鉛・水銀・六価クロム・PBB・PBDEについては0.1重量%以下に、カドミウムについては0.01重量%以下の含有にする必要があり、部品の製造時から対策が求められているため、素材や部品製造者との連携が非常に重要になっています。

以 上が講演の概要ですが、その他、電気・電子機器製造業界にとって重要な電池リサイクル指令、エネルギー使用製品に関するEuP指令、IPP指令(包括的製品政策)についての説明もありました。

講 演会終了後も熱心に講師に質問する風景も見られ、これらの指令に対する関心の高さを感じました。



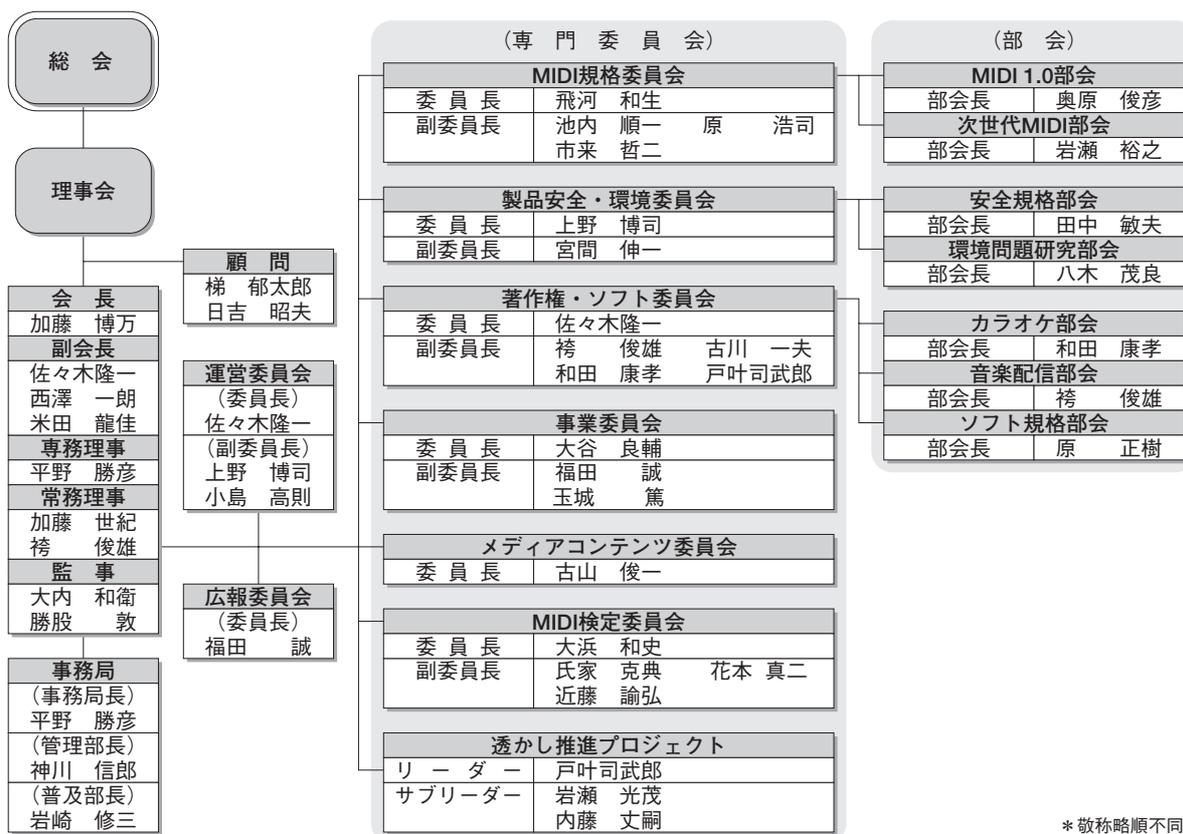
司会 八木部会長



講師 望月浩二氏



(社)音楽電子事業協会 組織図



(社)音楽電子事業協会 平成18年度役員名簿

会長	加藤 博万	ヤマハ株式会社 常務取締役	〃	中川 利巳	株式会社鈴木楽器製作所 取締役社長
副会長	佐々木隆一	株式会社エムティーアイ 取締役	〃	中西 正人	株式会社フェイス 専務取締役
副会長	西澤 一郎	ローランド株式会社 専務取締役	〃	西垣 保男	株式会社タイトー 代表取締役会長
副会長	米田 龍佳	株式会社第一興商 代表取締役社長	〃	英 裕治	ティアック株式会社 代表取締役社長
専務理事	平野 勝彦	社団法人音楽電子事業協会 事務局長	〃	張替 滋夫	株式会社ヤマハミュージックメディア 代表取締役 前会長
常務理事	加藤 世紀	株式会社コルグ 代表取締役社長	〃	飛河 和生	クリムゾンテクノロジー株式会社 代表取締役社長
常務理事	袴 俊雄	株式会社ビクターネットワークス 代表取締役	〃	堀主知 ロバート	株式会社サイバード 代表取締役社長
理事	赤松 憲樹	学校法人尚美学園 顧問	〃	松川 修二	NECエレクトロニクス株式会社 モバイルシステム事業部シニアエキスパート
〃	大野 政昭	株式会社サミーネットワークス 代表取締役社長	〃	村上 二郎	株式会社河合楽器製作所 執行役員電子楽器事業部長
〃	踊 契三	ギガネットワークス株式会社 代表取締役社長	〃	安富 和弘	株式会社セガ 執行役員 ネットワーク戦略事業部長
〃	加茂 正治	株式会社BMB 代表取締役社長	〃	大内 和衛	株式会社キューブ 代表取締役社長
〃	小林 宏	株式会社ドワンゴ 代表取締役社長	〃	勝股 敦	株式会社CTA 代表取締役社長
〃	前刀 禎明	アップルコンピュータ株式会社 代表取締役	〃	顧問 梯 郁太郎	ローランド株式会社特別顧問
〃	島村 元紹	島村楽器株式会社 代表取締役社長	〃	顧問 日吉 昭夫	
〃	鈴木 洋三	カシオ計算機株式会社 常務取締役 営業本部長	〃		
〃	田中 義雄	株式会社JEUGIA代表取締役社長			
〃	土岐 高広	株式会社エクシング 代表取締役社長			

(常勤役員は専務理事のみ、他の役員は非常勤です。)

会員名簿

50音順 2006年7月7日現在

あ

アイデックス音楽総研株式会社
アップルコンピュータ株式会社

い

株式会社インターネット
インフォコム株式会社

え

株式会社エクシング
NECエレクトロニクス株式会社
NTTコミュニケーションズ株式会社
株式会社エムティーアイ
株式会社エンターブレイン

お

沖電気工業株式会社
株式会社音響総合研究所

か

カシオ計算機株式会社
株式会社河合楽器製作所

き

ギガネットワークス株式会社
株式会社キューブ

く

株式会社グリオ
クリムゾンテクノロジー株式会社

こ

株式会社コピーライツ ビジョン
株式会社コルグ

さ

株式会社サイバード
株式会社サミーネットワークス

し

株式会社CTA
株式会社シーミュージック
株式会社JLS
島村楽器株式会社
株式会社JEUGIA
学校法人 尚美学園

す

株式会社ズーム
株式会社鈴木楽器製作所

せ

セイコーインスツル株式会社
株式会社セガ
株式会社セガ・ミュージック・ネットワークス

そ

ソニー株式会社

た

株式会社第一興商
株式会社タイトー
株式会社タムラ製作所

て

ティアック株式会社

と

東映ビデオ株式会社
株式会社ドワンゴ

に

ニフティ株式会社
学校法人片柳学園 日本工学院専門学校
日本シンセサイザー・プログラマー協会
学校法人電子学園 日本電子専門学校

の

ノキア・ジャパン株式会社

は

株式会社ハドソン
パナソニックモバイルコミュニケーションズ株式会社

び

株式会社BMB
株式会社ビクターネットワークス

ふ

株式会社フェイス
株式会社フォーサイド・ドット・コム
フォスター電機株式会社 フォステクスカンパニー
株式会社フットレック

ほ

ボーダフォン株式会社

ま

松下電器産業株式会社

み

有限会社ミュージカルブラン
株式会社ミュージックネットワーク

も

ミュージックノート株式会社

め

株式会社メロディーズ アンド メモリーズ グローバル

や

ヤマハ株式会社
財団法人ヤマハ音楽振興会
ヤマハミュージックトレーディング株式会社
株式会社ヤマハミュージックメディア

ら

株式会社ラグナヒルズ

り

株式会社リットーミュージック
株式会社リムショット

ろ

ローランド株式会社
〈以上、正会員会社66社〉

***賛助会員 (3社)**

中音公司 (中華人民共和国)
株式会社博秀工芸
株式会社ミュージックトレード社

第10回通常総会議事録の開示について

下記のAMEIホームページでご覧いただけます。

AMEIホームページ <http://www.amei.or.jp/> の会員専用ページ

会員専用ページへのアクセスはID及びパスワードの入力が必要です。
お忘れの方はE-mailにてお申込みください。

- 送付先: webmaster@amei.or.jp
- メール Subject に AMEI member HP registration (半角文字に限る)
- 本文にお名前、E-mail アドレス、会社名、所属、TEL、FAX を記入のうえお申込下さい。

定款送付のご案内

第10回通常総会にて定款変更が承認されました。
新しい定款を、会員代表者様宛、後日送付いたします。

AMEI NEWS Vol.30 / 2006.7.7
社団法人音楽電子事業協会 機関誌
発行: 社団法人音楽電子事業協会 事務局
〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-16-9 イトービル4F
TEL.03-5226-8550 FAX.03-5226-8549
発行人: 平野勝彦
編集人: 福田 誠 (広報委員会)
編集協力: 株式会社 博秀工芸
ホームページアドレス: <http://www.amei.or.jp/>